

第4回 細胞制御セミナー

演題：媒介節足動物から眺める寄生虫感染症のバイオロジー

講師：嘉糠 洋陸 先生

東京慈恵会医科大学 医学部 熱帯医学講座・教授

日時：平成 25 年 6 月 17 日（月）17:00～18:00

場所：長崎大学薬学部第一講義室（1 階）

要旨：マラリアという病気は、蚊によって伝わることは誰でも知っている。それは時によって“吸血時の物理的な接触によって病原体がうつる”と誤解されていることが多い。しかし実際には、マラリア原虫などの病原体は、それを運ぶ節足動物の体内における固有のライフサイクルを持っており、その体内での増殖・分化の過程を経て、次の宿主へと媒介される。興味深いことに、節足動物自身は病気になることはなく、“病原体を運搬するカーゴ”としてのみ機能している。節足動物によって媒介される感染症には、マラリアの他に西ナイル熱・日本脳炎・フィラリアなどがあり、依然として世界的に大きな問題となっている。その傍ら、この節足動物を介した病原体のライフサイクルは、遙か昔から保存されてきたものであり、その媒体である節足動物自身も多様な生命現象の宝庫である。我々は、ハマダラカ、ヤブカ、マダニ、ノミ、サシガメ、甲虫などを研究対象に、病原体-媒介節足動物間相互作用から、遺伝子診断技術の応用開発にいたるまで、幅広く研究を進めている。これらのモデル生物を軸に据えた我々の最新の知見を紹介したい。

講師プロフィール

嘉糠 洋陸（かぬか ひろたか）：1973年、山梨県に生まれる。1997年東京大学農学部獣医学科卒業。2001年大阪大学大学院医学研究科博士課程修了、医学博士（三浦正幸・岡野栄之両博士に師事）。理化学研究所・基礎科学特別研究員、スタンフォード大学・日本学術振興会海外特別研究員、東京大学大学院薬学系研究科・講師を経て、2005年より帯広畜産大学原虫病研究センター・教授。2011年6月より東京慈恵会医科大学熱帯医学講座・教授。これまでの自分の研究の中で扱ってきた動物は、大きさ順に線虫、ショウジョウバエ、蚊、蜂、カメムシ、マウス、ラット、ニワトリ、犬、馬、インド象、ホッキョクグマ。このリストについてヒトが追加された。

連絡先：長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科
生命薬科学専攻 細胞制御学分野

武田 弘資

TEL: 095-819-2417

E-mail: takeda-k@nagasaki-u.ac.jp